

特集●荒川流域を知る (9)

### 【緑のダム・都市のダム】

ここへ来て森林を語る人が増えている。ダム建設を反対する人は、森を豊かにすればダムは不要だと言う。林業者は木材が売れないから森を守れないと訴える。自然保護団体は天然林を守れと言ひ、都会の自然派は里山の二次林が荒れていると言う。松くい虫による全国的被害で、日本の伝統文化を案ずる人もいる。山崩れや土石流があると、スギ、ヒノキの一斉植林がよくなかったと報道される。海外の森林問題が放映されれば、そのまま日本の問題にすりかわり、日本の山も植林を急がねばという気になる。たしかに周囲を見渡せば、いつの間にか平地林は消え、丘陵は削られ、山は評判の悪いスギ・ヒノキの人工林が黒々と覆っている。しかし、日本の山は神々の隠れ場なので、日光などでは冷温帯落葉樹林では明るすぎると、わざわざスギ・ヒノキを献木して全山暗くしたとも聞く。

水を見に行く (8)

### 【パリの水 (1)・2007年10月31日パリ下水道博物館見学】

日常の暮らしの中で哲学を語り、言葉や文化を守ることにきわめて保守的で、それでいながら革命を起こし、思いっきり斬新なデザインを生み出す街、パリ。そんな気位の高いパリの下水道を見てきたと言ったら、皮肉屋と思われるだろうか。確かにそれもある。同時に下水を博物館にしているパリは偉い！とも思う。

### 【田で習う2】

田んぼの学校 見沼代用水のための市民コラボ CCM 通信 (3)

見沼田んぼで五年続けた体験的米作りを卒業し、農家支援に方向転換した CCM 活動、十八年度からは末端用水路のゴミ拾いや草刈り作業を始め、十九年度からは見沼で頑張る農家・尾島農園での援農も加わった。援農は、農作業を共にし、語り合うことで、体験的米作りでは得られない多くを学び、考える場になった。問題は絡み合って、その糸をほぐすのは容易ではないが、一つだけ言えることは、たっぷり汗を流し、都市の暮らしの気分転換になる草取りや草刈りが、農家の人手不足を補い、無農薬化を促し、結果、日本固有の二次的自然を育て、地域の自然環境保全に貢献できる、ということ。嬉しいことに農家も私たちを頼りにしてくれるようになってきた。手をつなげば大きな力になる。そんな勇気が双方に生まれ始めている。